

# はまぼうふう vol.14 2004.12.10.

石狩浜海浜植物保護センター通信

砂丘が風に削られて崖になったところに、横穴を発見しました。大きさや周りの状況から考えると、キタキツネが掘ったようです。休息に使ったのでしょうか。一箇所に複数の穴が集まった場所もありました。これは、子育てに使っていたのかもしれませんが。

穴の周りに足跡がついていることもあります。そんなときは、おどろかさなないようにとそっとその場を立ち去り、出入りするキタキツネの姿を想像します。

秋にはアキグミやハマナス、ヤマブドウの実を食べて草原を歩いていたキタキツネ。これからは、餌が乏しくなる厳しい季節です。雪の下のノネズミなどをさがして、歩き回らなければなりません。

白銀の原野となった浜を駆ける金色の姿に出あうと、私たちは感動ひとしおですが、キタキツネは餌さがしに必死なのですよ。



キタキツネの穴。ハマニンニクの根が上から下がる。

お知らせ

## 石狩浜海浜植物保護センター企画展

パネル展：「石狩浜、自然再発見～海浜植物保護センター5年間の活動から～」

浜の散策や学習活動がより充実する自然観察のポイントを紹介。身近な公共施設を以下の日程でまわります。花、野鳥の写真、砂丘草原や海岸林などの見どころ情報、センターでのボランティアグループの活動や子どもたちの学習活動の様子などのパネル展示です。

H17

3/1(火)～6(日)	石狩市民図書館(石狩市花川北7-1)
3/9(水)～13(日)	石狩市花川北コミュニティセンター(石狩市花川北3-2)
3/16(水)～27(日)	北海道環境体験センター(札幌市北区北7西5)

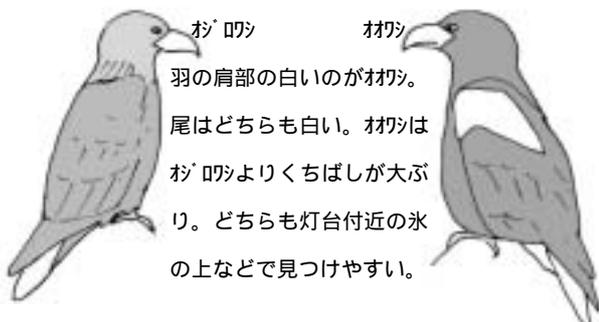
特別企画

積雪期の観察会：「春近し！雪の石狩海岸林ウォッチング」

夏にはササが茂って入ることがむずかしい石狩浜のカシワ林。雪のある時期に中を歩いて、地形や樹木、野鳥などを観察し、石狩砂丘の自然について理解を深めます。

日時：平成17年3月12日(土)9時～12時30分(悪天時中止)  
 集合・解散：花川北コミュニティセンター前(バスで現地へ)  
 定員：30名(2/15より受付先着順・小学生以下は保護者同伴)  
 持ち物・服装等：長靴・防寒着(帽子・手袋など)・双眼鏡・筆記用具  
 申込み・問合せ：0133-72-3240(海浜植物保護センター)

## Watching!冬の鳥



オシロイ  
羽の肩部の白いのがオシロイ。  
尾はどちらも白い。オオシロイは  
オシロイよりくちばしが大ぶ  
り。どちらも灯台付近の氷  
の上などで見つけやすい。



初心者でもわかりやすい冬ガモです。  
 ホオジロガモ：木の頭は深緑で、ほお  
が白い。双の頭は濃茶。群れている  
ことが多い。港や河口で見つけやすい。  
 スズガモ：群れている。くちばしの  
つけねが白い双を見つけると、同  
定しやすい。港で見つけやすい。

さきゅうせいいたいけい ひそ  
砂丘生態系の観察～砂浜に潜む虫たち～

12号より、海-砂浜-砂丘が互いにつながりあって成り立っているという、砂浜海岸の自然のしくみに目を向けています。今回は、砂浜に潜む虫たちの世界をのぞいてみます。

夏には海水浴を楽しむ人々でにぎわう砂浜。ここにも食物連鎖の網は張りめぐらされています。

石狩川河口右岸で昆虫(おもに甲虫目)調査をしている小林さんによると、1999～2003年までに140種の甲虫類を確認したそうです。これらの中には、本来の生息域が海浜砂浜地帯である種のもののほか、草原性のもの、森林性のものなども確認されています。

中でも種類数が多いのは、ハネカクシ、ゴミムシダマシの仲間など、腐食性のものです。これらは、砂浜に打ち上げられた生きものの死がいなどを食べる、浜の掃除屋と言えるでしょう。ゾウムシ、コメツキムシ、コガネムシの仲間など、食葉性の種も比較的多く見られています。また、カミキリムシやクワガタなど、おもに森林で朽木を食べる種(クワガタは、幼虫が朽木を食べる)も見つかっています。これらは、流れ着いた木の材を食べているようです。また、草の葉や根を食べる種類は、背後の海浜植物群落に依存しているものと思われます。

一見、生きものの姿が見えない砂浜ですが、流木などの漂流物に隠れたり、背後の海浜植物群落を行き来することで、虫たちは砂浜を生活の場としているのです。

このような多様な昆虫相は、漂着物が寄せる砂浜と背後の海浜植物群落、海岸林が一带となった複雑な環境があるからこそ、育まれているのです。コンクリート張りの海岸では、隠れ家を失い、食物も乏しく、ほとんどの虫たちはくらしていくことはできません。

参考文献:「砂浜海岸の生態学」東海大学出版会,2002.

「日本の渚」岩波新書,1999.

去る11月13日、石狩湾新港でのマリナーオーサカ号の事故により流出した重油は、石狩浜にも流れ着きました。海岸での必死の除去作業も行われましたが、新聞紙面では、冬に石狩湾に飛来するアビやウミスズメなどへの影響も報告され、残念な限りです。

海岸生態系への影響はどうでしょうか?流れ着いて砂浜を覆った重油の膜は、砂の中で暮らすゴカイや貝類などの小動物の生息に少なからず影響を及ぼすものと思われました。それらを食べるシギやチドリ類の飛来時期は、今シーズンはすでに過ぎていますが、来春の飛来時に、餌となる小動物はいるでしょうか。人間の目には見えない部分で、砂浜生態系への影響が心配されます。

砂丘最前線のハマニンニクの根にも付着した重油が見られましたが、冬の高波や強風により、もともと侵食される場所であるため、生育への影響はほとんどないものと思われましたが、重油の混じった海水は、冬の強風により、飛沫として内陸に運ばれることも考えられます。これによる内陸の海浜植物への影響あるのか、注視していきます。



昆虫相から見た砂浜の生態系、模式図

## 自然観察会から

### 帰化植物ハマオニダイコンの確認

植物図鑑「日本の帰化植物」(平凡社)によると、「1982年に新潟県村上市で発見、その後、83年に北海道長万部町でも発見され、以後分布は広がりがつある」と記述されています。3年前、道北天塩の海岸でこの植物がたくさん茂る様子を観察し、石狩でこのような様子が見られるようになるのも時間の問題かな、と思っていたところ、今年の観察会で、石狩でも確認されました。風船状の果実(図鑑には筆先のような形と記される)が、波に浮いて運ばれ、他の海岸にたどりついて、分布を広げていくようです。



ハマオニダイコンの果実と肉厚の葉(H13道北の海岸にて)

原産地は北米東海岸。今はヨーロッパの海岸でも見られるそうです。

今後、石狩浜の植物として定着していくのか、観察を続けていきましょう。

## 活動報告

### 自然観察会

日時:8月20日(土)10時~12時30分

場所:はまなすの丘

参加者:20名 指導:1名

春から秋まで、季節を追って浜の自然を観察する第4回目。秋を迎えたはまなすの丘の観察。湿地では、ナガボノシロワレモコウやオグルマ、サワギキョウの花が見ごろでした。シギの仲間も確認、渡りの季節でした。

日時:9月12日(日)10時~12時30分

場所:はまなすの丘

参加者:23名 指導:3名

秋の深まる石狩砂丘を海岸林から海岸草原まで歩きました。海岸林では、カシワをはじめ、アズキナシ、マユミ、サワフタギなど木の実、海岸草原では、ヒロハクサフジやコガネギクなどの花を観察しました。石狩砂丘の地形についても、実際歩くことで、理解が深まりましたよ。

### こども自然教室

日時:10月2日(土)9時~15時30分

場所:石狩浜海浜植物保護センター

参加者:こども15名 おとな5名

指導:3名 体験:3名

市内の小学生を対象とした、自然体験教室で、参加者からは毎回好評の声をいただいています。

今回は、天候が心配される中、スタート。虫めがねを持って、草原の小さな世界をのぞくと、ハマヒルガオやコウボウムギのタネ、小さなカタツムリ、ハマナスの実にもぐりこむカメムシなど、たくさんの発見がありました。

ブドウのつるでリースづくりもしました(写真)が、雨により、センター内へ退散。海浜植物の実などをつかって、クラフトを楽しみました。

帰路は、バスでカシワ林へ。カシワの木に実ったドングリを見て、みんな大喜びでした。



私が巻いたリースだよ

### ボランティア開花調査

昨年、石狩ふるさと自然塾の修了生有志により発足した石狩浜夢の木プロジェクトは、今年の4月~10月まで、石狩浜の開花状況調査に取り組みました。月2回、はまなすの丘と海岸草原(石狩小樽海岸線沿い)を調査し、その情報は保護センターに提供していただきました。

地域交流事業～ハマボウフウ交流会 in 名取・七ヶ浜～

ハマボウフウ交流会は、宮城県で活動する名取、七ヶ浜ハマボウフウの会と、当センター中心に石狩浜で活動するメンバーとが、情報交換、発信、交流の場として開いて3回目になります。今年は、神奈川県湘南海岸、新潟県寺泊町で保護活動に取り組むグループの代表者が加わり、5団体での開催となりました。海浜植物保護センターからはセンター長が参加、名取、七ヶ浜を訪問し、情報交換してきました。

博物館講座プロジェクトM 植物の標本づくり

9月18日(土) 13時30分～

石狩砂丘の風資料館主催の子ども向け講座。センターの裏手に生えるハマニガナやウンランなどの海浜植物を根から採集、スケッチと押し葉標本を作成しました。子どもたちは、「植物を掘る!」ことが一番楽しかったようです。



押し葉標本づくり



根を切らないように掘るぞ

こどもエコクラブの活動

・紅南探検隊

10月15日(金) 石狩浜の3ヶ所でどんなゴミが多いのかを調べ、そのうち、カンとペットボトルを集めて洗い、リサイクルプラザへ持ち帰りました。子どもたちは、ごみの多さに悲しくなってしまう、なんとかしたいと、作戦を思案中。

・いしかり KIDS 2 1

10月24日(土) 秋も深まった浜辺で、流木やクルミを集め、それを使って小物を作りました。変わった形の流木の上に、ハマヒルガオおのタネを並べて文字を書いて、表札にしたり、クルミと流木を組み合わせて人形をつくったり。かわいい小物ができました。



冬期学習会「北海道の自然と保護保全の現在」

～石狩地域では・・・そして私たちにできること～

12月5日(日) 13時～16時

会場 花川南コミュニティセンター

講師 北海学園大学教授 佐藤 謙 氏

参加者 40名

石狩に残る防風林や海浜地、湿原の貴重性を再確認するとともに、植物種や植生(植物のまとまり)を地域の財産として、その目録を地域住民の手でつくっていくことが大切であるとお話いただきました。

お礼

開館5年を迎えたセンターには、これまで、植物や野鳥の写真、本などを、数多くいただいております。提供いただいた方々に深くお礼申し上げます。

またこれからも、みなさまからのさまざまな情報を、心よりお待ちしております。

団体発行の通信・報告書なども、ぜひご提供ください。

お知らせ：平成15年度センター活動報告書、12月末に発行予定。入手希望者は問合せください。

.....  
行事・講座への参加申込・お問合せ、通信・刊行物に関するご意見、お問合せ等は、下記まで。

冬期閉館期間(11/4～4/28)：〒061-3292 石狩市花川北6条1丁目30-2 石狩市役所内

tel.0133(72)3240 fax.0133(75)2275

開館期間(4/29～11/3)：〒061-3372 石狩市弁天町48-1 tel.0133(60)6107 fax.0133(60)6146

開館時間9時～17時 休館日：火曜日(祝日の場合その翌日)

email. [ihama@city.ishikari.hokkaido.jp](mailto:ihama@city.ishikari.hokkaido.jp)

HP : <http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/kaihinsyokubutu/index.htm>